

大学名	チーム名(プロジェクト名)
佛教大学	豊栄クラス商品開発プロジェクト

参加学生 (登壇者★)	大木洸輝(社会学部)3回生 古畑和希(社会学部)3回生 手塚達也(社会学部)3回生 芳賀唯飛(社会学部)3回生	連携先からの ミッション	鳥獣被害の原因である柿を用いて、商品開発を行い、グローバルな視点から豊栄地区の経済的な活性化を図る提案を行う。
活動期間	2021.4.21 ~2022.2.13	受け入れ先 団体・企業名	豊栄まちづくり委員会

ミッションへ取り組み概要(自由記述, 図表・画像挿入可)

・豊栄地区の概要

豊栄地区は京都市北部に位置している京丹后市丹後町にある地区のことであり、日本海に面して、多くの山々に囲まれており自然が豊かな地域。京野菜・水菜のハウス栽培や牛の放牧などを行い、「間人ガニ」ブランドのズワイガニも水揚げされている。

・豊栄地区で問題となっていた鳥獣被害の原因である柿を用いた商品開発の概要

①豊栄地区内に植生している柿を用いて商品を開発する為に実際に柿を郵送してもらい食し、材料費や時間的負担が軽量で済み、尚且つケーキやヨーグルト等のトッピングとしても用いやすい**柿チップス**を選択。

②比較的日持ちする果物ではない柿(常温保存の場合5日程度で柔らかくなる)をジャムにすることで、より長期的な保存を可能にし、又柿ジャムは商品としてあまり見る機会が少ないが、果物種のジャムが多く存在している観点から抵抗感なく興味を持ってもらえると考え、**柿ジャム**を選択。

③柿チップス・柿ジャム両商品を作り、11月に行われた豊栄地区の文化祭で来場者含め計20~30名程に試食してもらいアンケート調査を実施した。

④商品開発を通して豊栄地区の経済を活性化させるという観点から、柿を商品化するに際し、原価利益計算の一例を上げながら計算を行い、利益を出し地域経済の循環を行えるようにベースとなる数値の算出を行った。

⑤アンケート結果の分析を行い、植生している柿の味の現状と直面し、チョコレートやキャラメルソースをかけたり、ラム酒漬けにして販売することで「匂い」と「味」の観点からの商品の改善を図り、ミッションに対する今後の取組とする。

⑥「**プロセスエコノミー**」というマーケティング方法を提案していくことで、柿の商品化するまでのプロセスを付加価値として捉え、また豊栄クラス魅力発信プロジェクトと協働で取り組むことを可能とし、全世界の人々を対象に、商品が出来上がるまでのストーリーを、SNS等を用いて広告していき、経済の活性化を図ることを今後の提案とする。

ミッションに取り組む中で社会的課題として見えてきたこと(ミッションと深く関わる社会的な課題)

①地域の人手不足

地域において人口減少・少子高齢化により雇用・産業の創出が困難であり、経済を循環させるための若者世代や子育て世代が人口割合的に低くなってしまっている。

②若者世代の地域への関心の変化

多くの人口が密集している都市の若者世代は地域と関わる経験が少なく、地域の課題等に関して触れる機会・考える機会が実体験として少ない為、若者世代の地域への関心が低下しているのではないかと感じられた。